

南伊勢町
8つの滝の
ものがたり

sakimonogatari



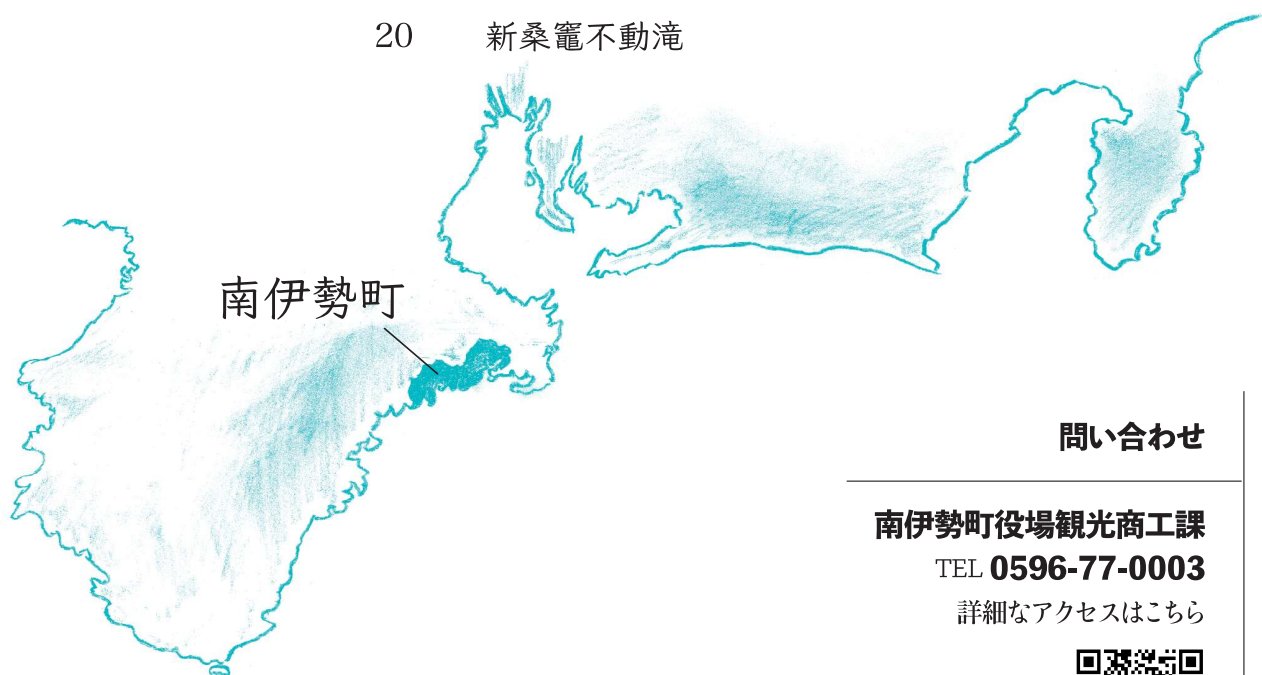
南伊勢町

8つの滝のものがたり

目次

index

- 1 海と生き、山と暮らしてきた南伊勢町
- 2 南伊勢町 滝イラストマップ
- 4 はじめに 南伊勢町と滝
- 6 切原白滝
- 8 神地谷七つ滝
- 10 押渕白滝
- 12 東宮不動滝
- 14 河内不動滝
- 16 村山不動滝
- 18 古和浦不動滝
- 20 新桑竈不動滝



問い合わせ

南伊勢町役場観光商工課

TEL 0596-77-0003

詳細なアクセスはこちら

【ヤマビルにご注意ください】

春から秋にかけて、ヤマビルが地表に多く現れます。
極力肌の露出を避けてヤマビルの侵入を防いだり、
体に付着しないよう防虫剤を使用するのも効果的です。





海と生き、山と暮らしてきた南伊勢町

伊勢志摩国立公園の最南端に位置し、南側は熊野灘に面する南伊勢町は、典型的なりアス海岸に恵まれ、海岸線の長さは 245.6km に及びます。深く入り込んだ湾を生かして、古くから漁業や製塩、あるいは海上交通の拠点として栄え、海とともに生きてきた町です。一方、北側は山地が迫っているために平地には恵まれませんでした。貴重な田畑を大切に耕し、日当たりの良い斜面を農業などに生かすとともに、山地は製塩のための薪を得たり炭焼きに生かすなど、海・山・川を暮らしの資源として生かしてきました。

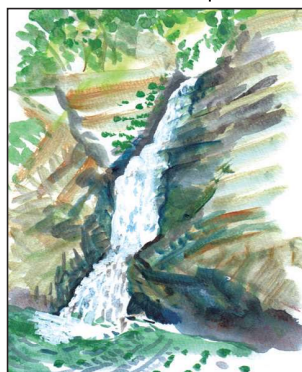
38の集落がありますが、これらの集落は江戸時代からの自治の伝統を引継ぎながら人々の暮らしを守るなかで、「浅間さん」「天王まつり」など、さまざまな祭りや風習文化

を継承してきました。そして神宮の「御厨」^{みくりや}があったなど古くから伊勢神宮との関わりが深い地域で、また町内には平家の落人伝説もあります。さらに剣祖と称せられる愛洲移香斎^{あいすいこうさい}や、治水や航路開設で活躍した河村瑞賢^{ずいけん}などの偉人を生み出すなど、歴史と文化に彩られたまちです。恵まれた海・山・川が生活の場であり、人々は美しく雄大な自然を大切に守ってきました。

町域の約 6 割が伊勢志摩国立公園に指定され、「ハートの入江」の見える鶴倉園地「見江島展望台」、南島大橋と阿曾浦大橋の「親子大橋」、五ヶ所湾と太平洋の大パノラマが楽しめる「南海展望台」など、素晴らしい景色のスポットがたくさんあり、どの山に登っても海が見えるハイキング道も魅力です。

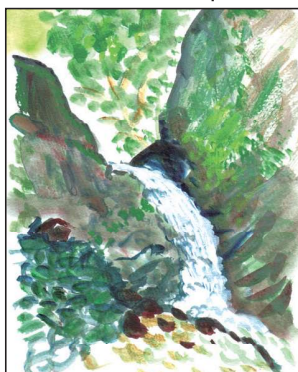
南伊勢町 滝イラストマップ

p16-17



6 村山不動滝

p14-15



5 河内不動滝

p12-13



4 東宮不動滝

p18-19



7 古和浦不動滝

町境

7 古和浦不動滝

古和浦

8

新桑竈不動滝

町境

河内不動滝 5

6 村山不動滝

4 東宮不動滝

東宮

東宮資料保存館

●仙宮神社

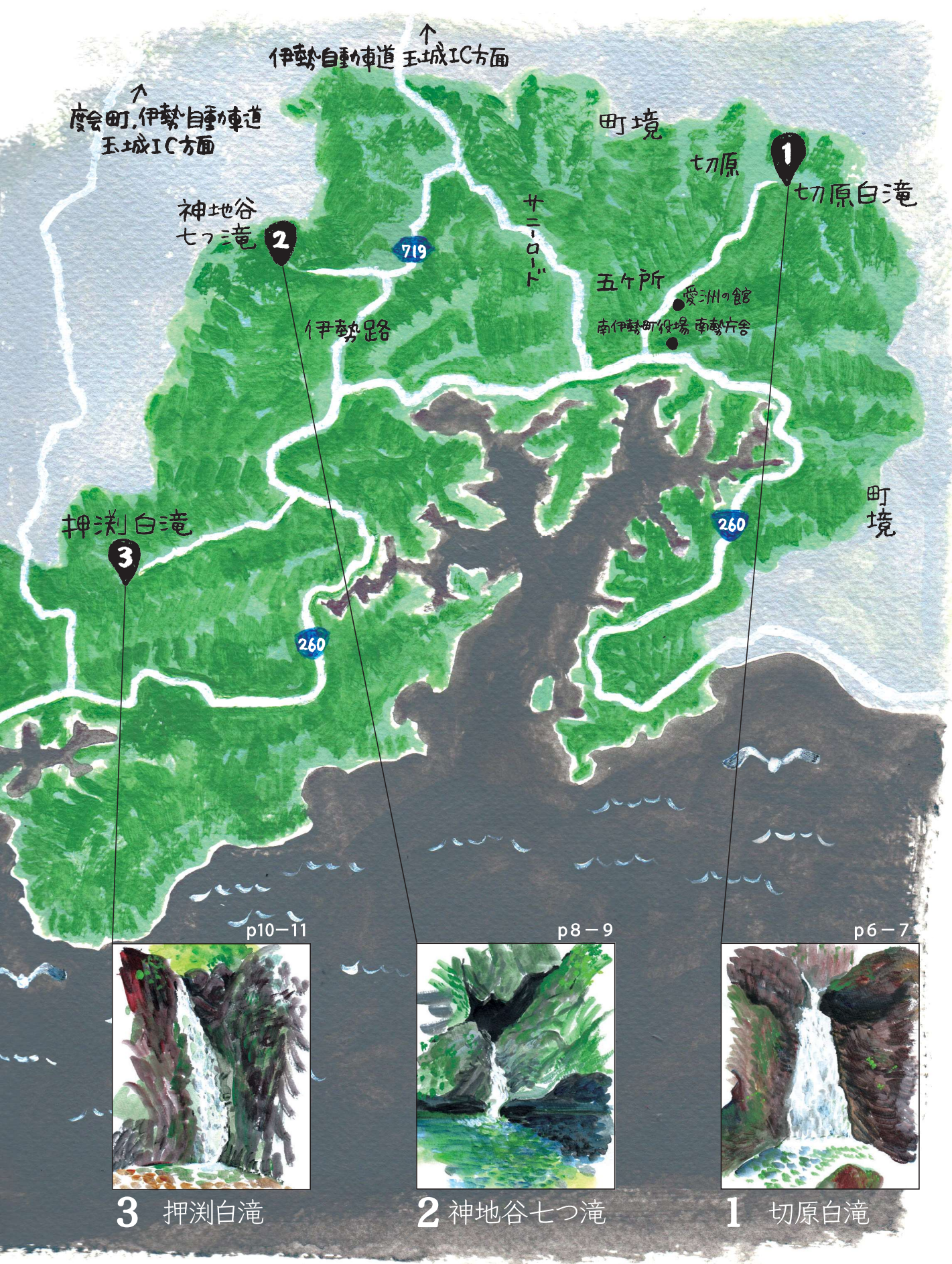
河内

南伊勢町役場南島庁舎

p20-21



8 新桑竈不動滝





はじめに

南伊勢町と滝

南伊勢町には、「不動」と名の付く滝が多く存在します。

かつて南伊勢町^{かみさきうら}神前浦周辺は、神宮(外宮)の御厨^{※みくりや}となっていて、古くから伊勢神宮との関わりも深く、尊い場所でした。そのとなり、南伊勢町河内に鎮座する仙宮神社には、中世の頃に廃寺になった仙宮院という神社に附属して建てられた寺院がありました。その仙宮院を開いたと伝えられる役行者^{えんのぎょうしゃ}の下、多くの修験者が滝で修行をしたと

いられています。修験道では、不動明王が本尊として多く祀られており、修行をした滝にも不動明王が祀られ、そこで修行に励みました。

南伊勢町の滝に不動明王が祀られ、不動滝との名称の由来はそこにあります。

また、仙宮院は、行基、最澄、空海、円仁らの高僧が院主となって、神宮のために法会が厳かに修められたと伝わっています。

※御厨 ... 神にお供えをする神饌^{しんせん}を用意する場所のこと。台所を意味する「厨」の字に、神への敬意を表する「御」の字を付けた用語。



File No.

1

切原白滝

きりはらしらたき

落差：約 10 m



緑に囲まれ雨を祈った場所



山深い清浄の地であるが、気軽に訪れることができる

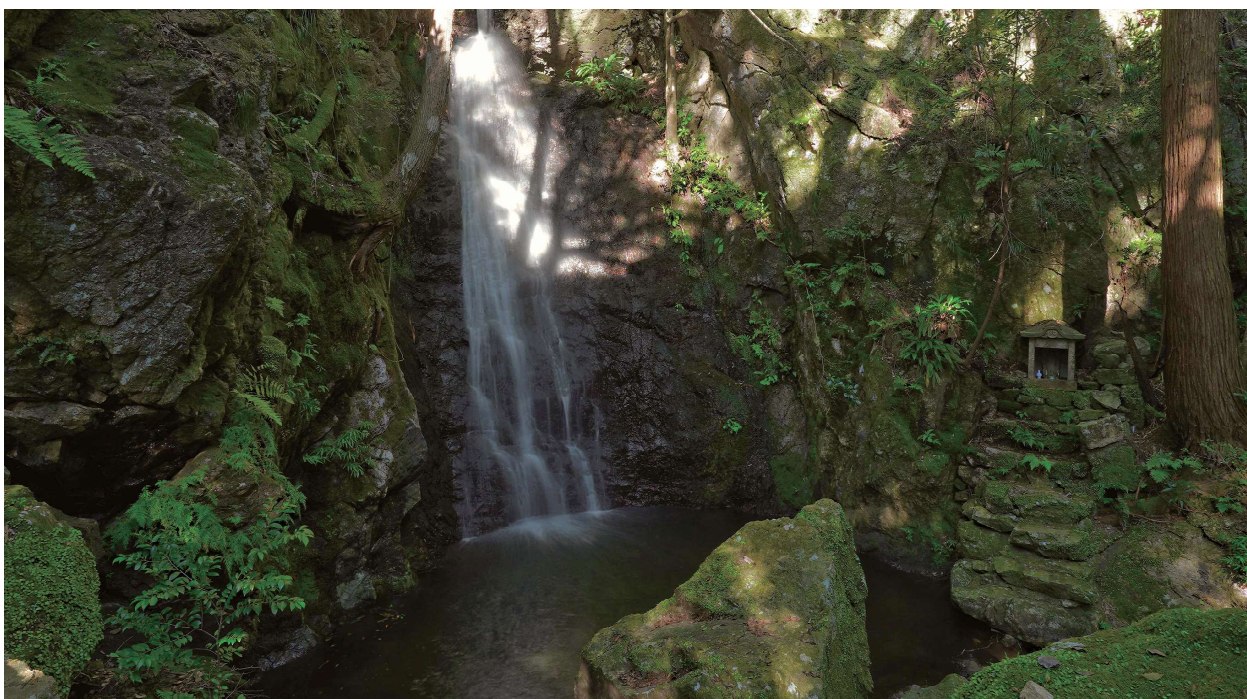
「山にひびいて白滝さへも水は碎けて花と咲く」。童謡「七つの子」や「シャボン玉」で知られる日本三大童謡詩人の一人・野口雨情^{うじょう}〔明治 15 年（1882）～昭和 20 年（1945）〕が、昭和 11 年（1936）7 月に南伊勢町を訪れ、切原白滝のことを詠んだ歌。その歌碑が白滝への入り口に立つ。

世界の真珠王^{みきもとこうぎち}・御木本幸吉が樹木の乱伐を防ぐため、五ヶ所浦の名所の一つとして、この滝一帯を購入したと伝わる。周囲は夏でも涼しい深い森に囲まれ、ハイキングコースになっている。

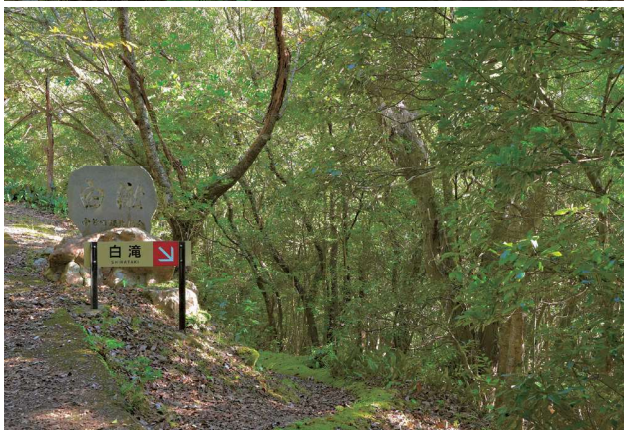
平成 20 年代前半ごろまでは地元の小学校が、遠足で訪れていたといい、比較的安全で容易に行くことができ、看板のある入口からは白く輝く滝まで徒歩 2 分ほどでたどり着く。目の前で豊富な水量が一気に落下し、轟音をあたりに響かせている。

昔は、雨が降らずに干ばつが続くと、滝つぼへ飛び込み、塩で清めて「雨乞い」をしたと伝わる。滝の右側に不動明王像が祀られている。

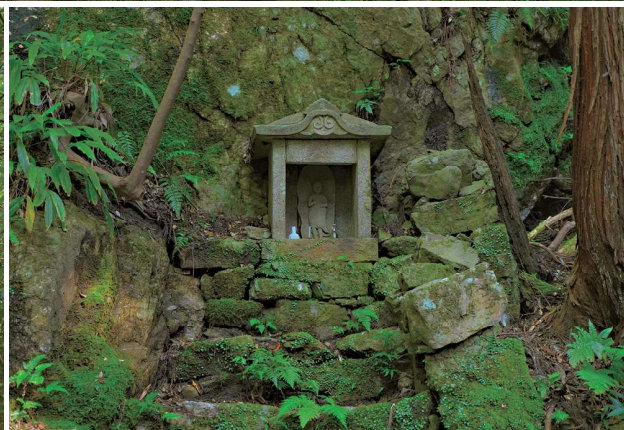
01



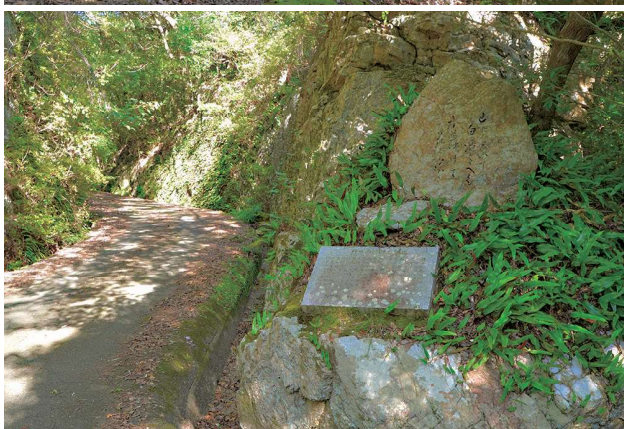
02



05



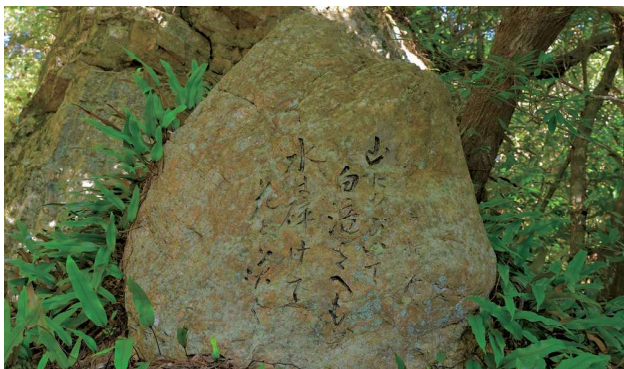
03



06



04



- 01 階段を降りると滝が姿を見せる
- 02 白滝への入口に案内看板
- 03 入口近くの野口雨情の歌碑
- 04 白滝を詠んだ詩が刻まれる
- 05 石段が設けられた上に祠が佇む
- 06 不動明王像

File No.

2

神地谷七つ滝

こうじやななつたき

落差・約2～5m



住民が名付けた連滝をめぐる



4番目の想い滝。落差はそれほどないが白く輝く滝水

伊勢路川の支流にある7つの滝。谷合い全体が巨岩に覆われ、約500メートルの間に滝が次から次に連なり、落差はわずかながらも連滝の森林浴スポット。それぞれに出合い滝、逢瀬滝、寄添い滝、想い滝、忍ぶ滝、隠れ滝、清め滝との呼び名があり、昔、偶然に逢瀬滝で出会った若い女性と男性に思いを馳せ、“寄り添いながら見た滝”など恋愛ストーリーを元に、地域の人たちが考えて名を付けたという。

入口から2分ほどでたどり着く最初の滝が出合い滝。水の勢いは岩をくびれて流れ落ちる。

川沿いの山道を歩いて次を目指す。最後に見られる隠れ滝は、その名の通り滝が岩によって隠されている珍しい滝で、滝水は静かに真っ直ぐ滑り落ちる。

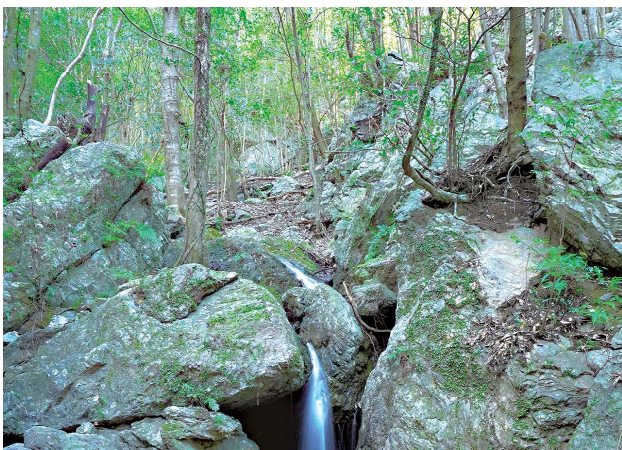
落差や形状、大きさまざまの7つの滝を見学して、入り口に戻るまでは1時間程度。アップダウンの山歩きと、涼しげな滝めぐりが楽しめる。

また滝の周辺には、何段も連なる石積みの敷地があり、昭和30年代ごろまで稲作が行われていた棚田跡となっている。

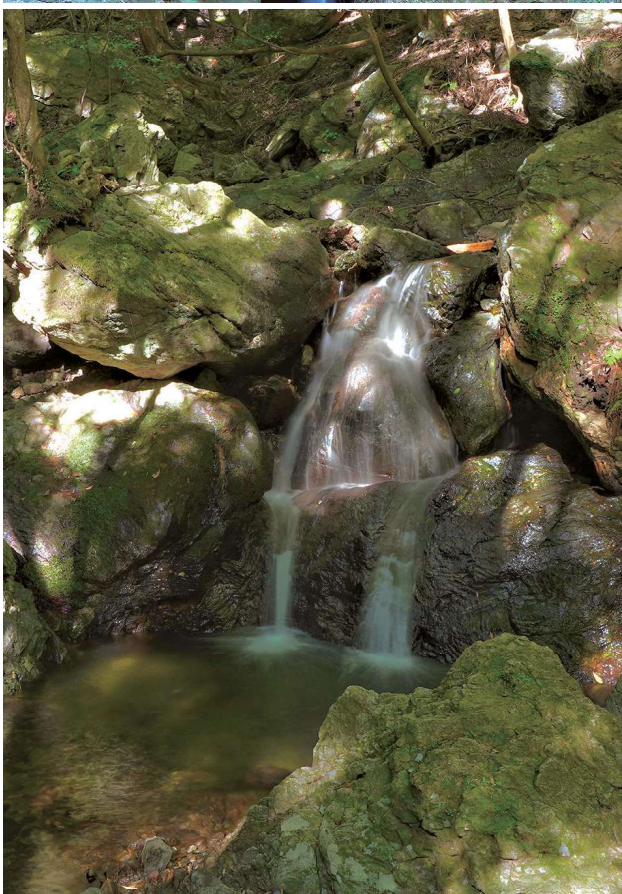
01



02



03



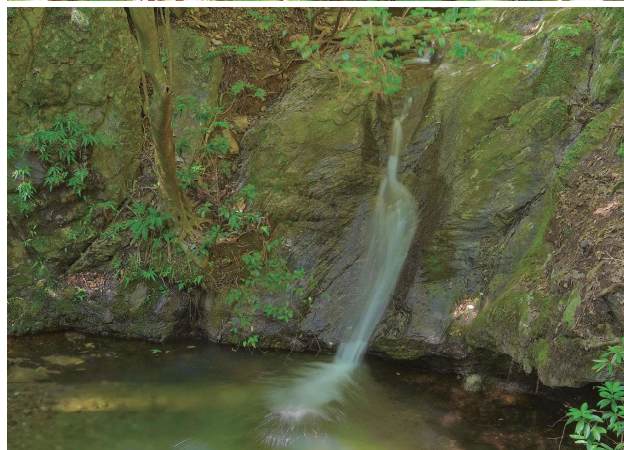
04



05



06



01 1番目の出会い滝。入口から1.2分ほどで到着
 02 2番目の逢瀬滝。男女が初めて会ったとされる
 03 3番目の寄添い滝。寄り添うような二つの流れ

04 5番目の忍ぶ滝。男女がお忍びで会ったとされる
 05 6番目の隠れ滝。大きな岩に隠れるように流れる
 06 7番目の清め滝。清らかな輝きが美しい滝つぼへ

File No.

3

押漕白滝

おしぶちしらたき

落差・約 10 m



伝説の緑の森はシダ類の宝庫

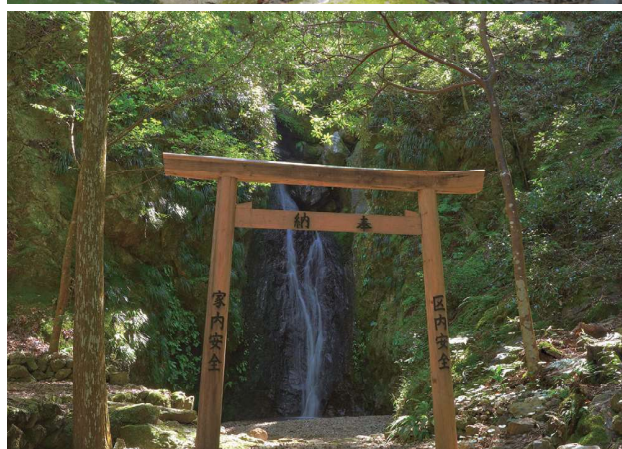
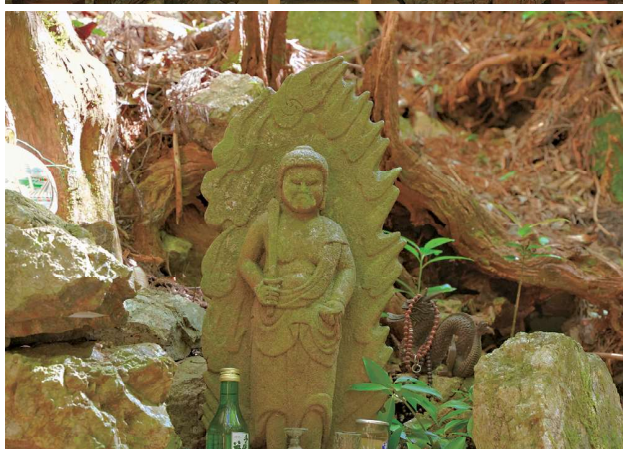
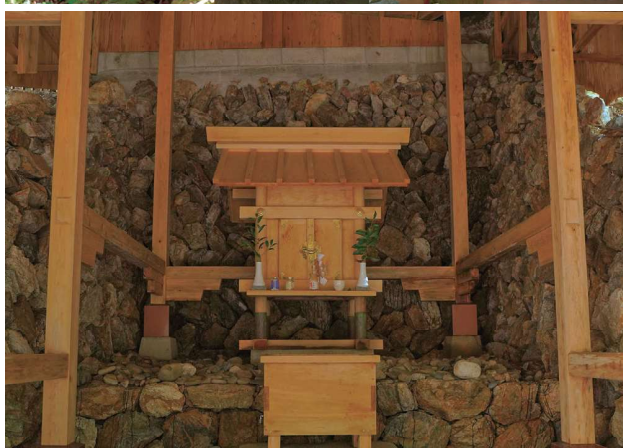
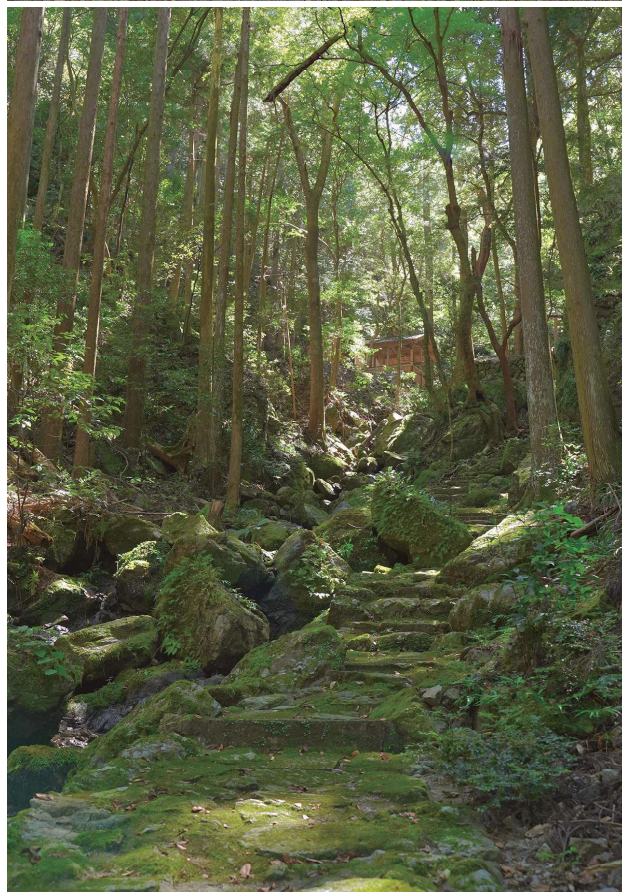
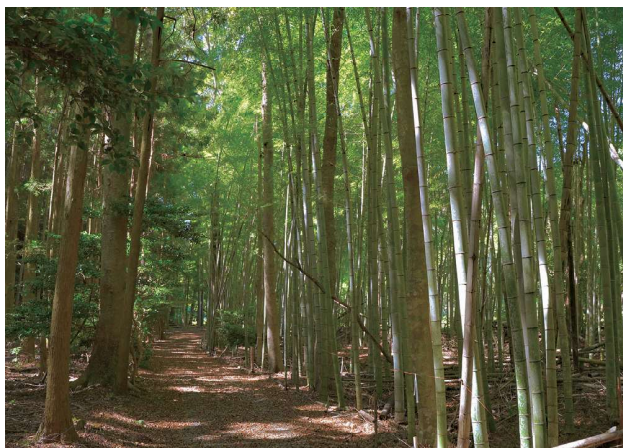


沢沿いを歩いてたどり着く押漕白滝。岩場にもシダが自生する

国道 260 号より押漕の集落を抜けたところに滝へ続く道がある。竹林の道を歩いて進むと鳥居があり、そばには大正時代に生まれた歌人・東季彦^{あづますえひこ} [明治 19 年 (1886)~昭和 54 年 (1979)] の歌碑が立つ。「離郷以来始めて村に帰り来て先ず腹這ひて谷の水呑む」。そこから沢沿いの苔むした石畳を登っていくと滝に到着する。

滝つぼの横にある白滝神社は、滝そのものをご神体として祀り、古くから白龍の伝説が伝わる。また「白滝権現」の名でも親しまれ、地元の古老たちは敬愛を込めて「白滝さん」と呼んでいる。毎年 3 月の第 4 日曜日に例祭が執り行われている。神社の小さな社の右側には、不動明王像が祀られている。

押漕白滝の周辺はシダ植物が自生しており、昭和 3 年 (1928)、国の天然記念物に指定され (鬼ヶ城暖地性シダ群落・細谷暖地性シダ群落)、アツイタやキクシノブ、ナンカクラン、リュウビンダイなど紀伊半島以南の暖かい所にまれにしか見られないシダ類が、11 種類も確認されている。



- 01 竹の繁る歩道が100メートルほど続く
- 02 東季彦の詠んだ和歌を碑に刻む
- 03 小さな社を建てて白滝権現を祀る白滝神社
- 04 社の横にある不動明王像

- 05 2つ目の鳥居
- 06 苔むした石段を登っていくと滝に到着する
- 07 鳥居越しに滝を臨む

File No.

4

東宮不動滝

とうぐうふどうたき

落差・約 13 m



南伊勢町の偉人、河村瑞賢の通った滝



滝水が岩を削る力を間近で感じられる

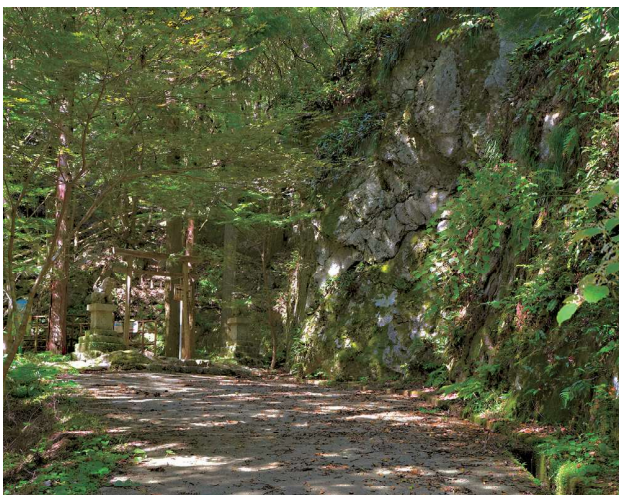
東宮川の上流にある滝。滝へは石段の参道が続き、入口に鳥居と立派な狛犬が置かれている。地域の人たちが願掛けをして設置したという。

南島町（現南伊勢町）東宮の生まれで、江戸時代初期の豪商・河村瑞賢〔元和4年（1618）～元禄12年（1699）〕が、少年時代に母の病気が治るよう祈願するため、何度も通ったと伝わる。

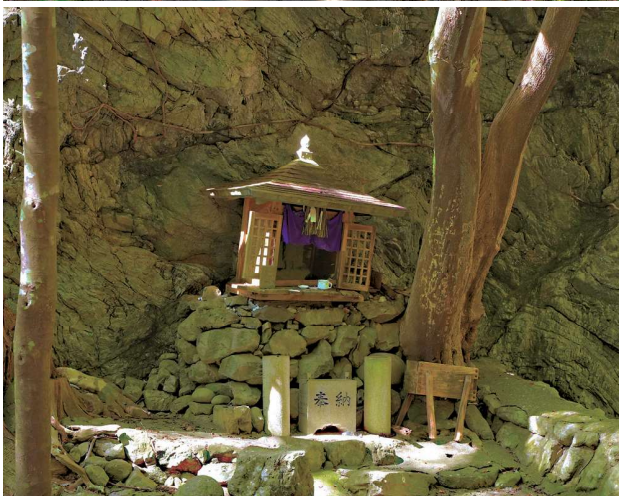
苔むす石段や巨木が神秘的な雰囲気、森の緑を背景に素晴らしい景観を醸し出す。滝は切り立った岸壁を大きくV字型に切り込んだ中を流れ、落差もあり、雨が少ない冬季でも水量が多く、轟音を響かせて落ちている。滝の左側の岩陰に不動明王像が祀られていて、古くから大切にされてきた気配を感じさせる。

周辺は、2018年8月公開の映画「青夏 きみに恋した30日」のロケ地にもなった。願い事を1つ叶えてくれる滝として、主演の男女が祈りを捧げた。

01



02



03

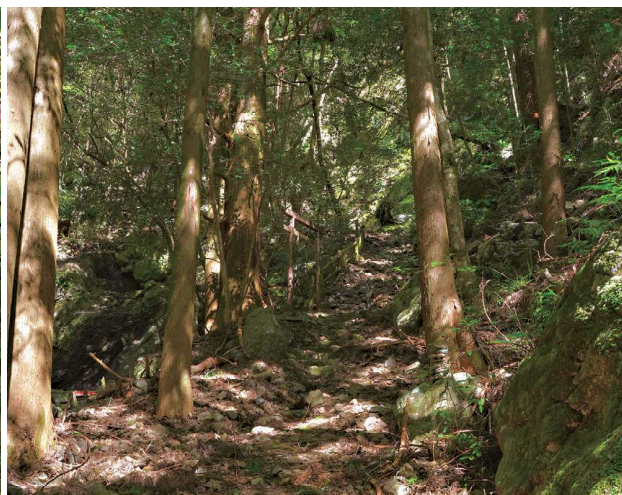


01 木漏れ日の中、100m ほど舗装された道が続く

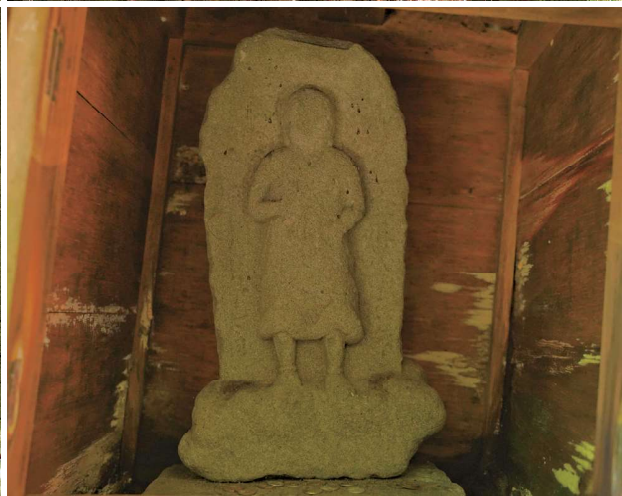
02 不動明王像が祀られている祠

03 澄んだきれいな水を貯える滝つぼ

04



05



04 道を登ると滝を上から眺めることができる

05 不動明王像

File No.

5

河内不動滝

こうちふどうたき

落差・約 10 m



集落の人の願掛けの場



断崖に囲まれた静寂の中、迫力ある流れ

かつては、滝に向かう途中にある御手洗場で、心身を清めてから滝へと向かったといわれている。滝は地域の人たちにとって、願を掛ける場所でもあった。

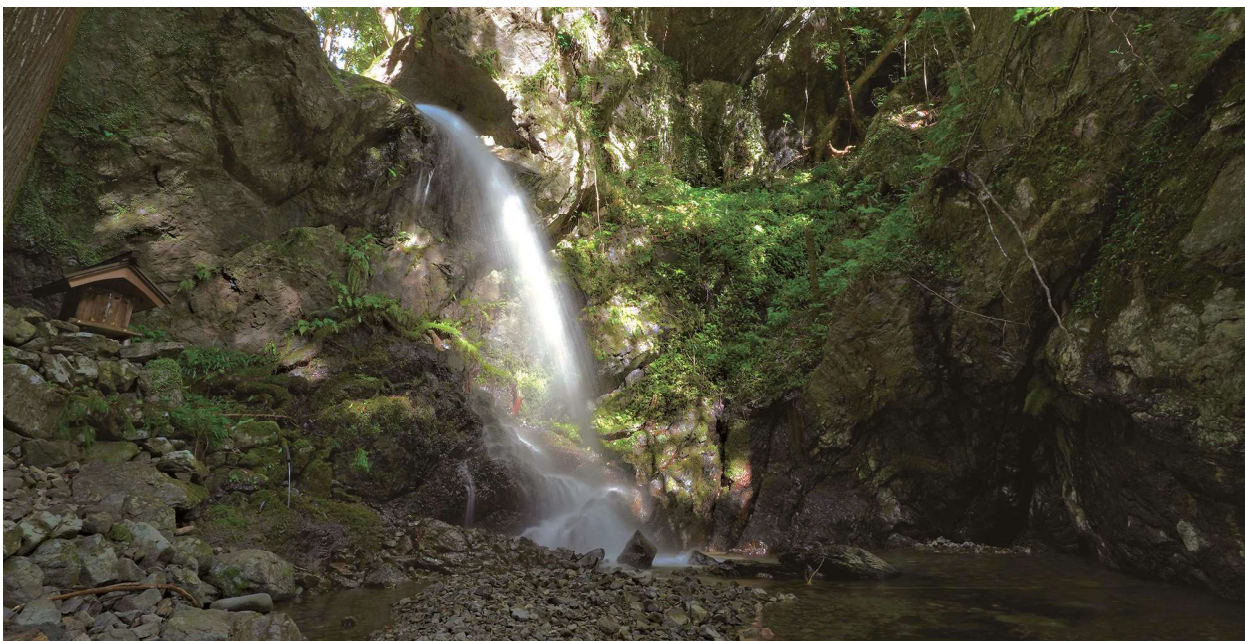
「不動の滝まで 500 m」という看板から、舗装された平坦な道を歩く。

岩に囲まれた釜の中に小さな滝が流れ落ち、岩の隙間を通して赤い鉄製の橋を渡ると、切り立った断崖に囲まれ、閉鎖された空間に滝つぼがある。その滝つぼを目掛けて大量の水が勢いよく飛び出すように流れ出て、迫力を感じる。

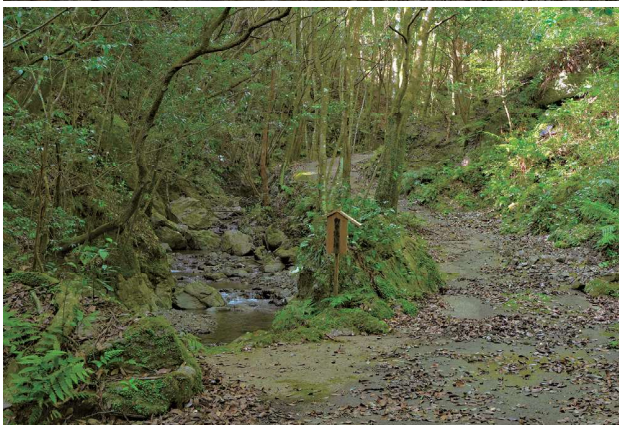
絵に描いたような瀑布を直下から見上げれば、爽快なマイナスイオンと心地よい滝の音で癒される。滝つぼ周辺を大岩が囲う雰囲気など、まさに秘境感がある。直瀑の上部は水流で滑らかに削られた斜瀑になっていて、これも美しく、まるでプールのすべり台のように見える。

滝の左側には小さな祠が祀られていて、不動明王が鎮座する。

01



02



05



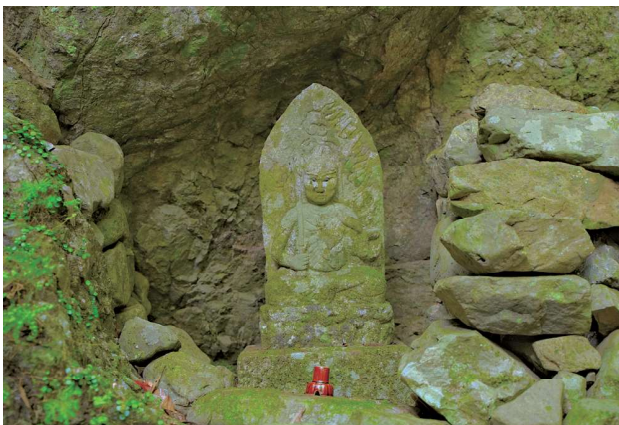
03



06



04



- 01 水量が多い日は勢いよく飛び出すように流れる
- 02 御手洗場があり参道が滝へと続く
- 03 自然崇拝の神様が祀られた祠
- 04 不動明王像
- 05 赤い橋を渡り不動滝へ進む
- 06 滝は神仏が習合した神聖なところ

File No.

6

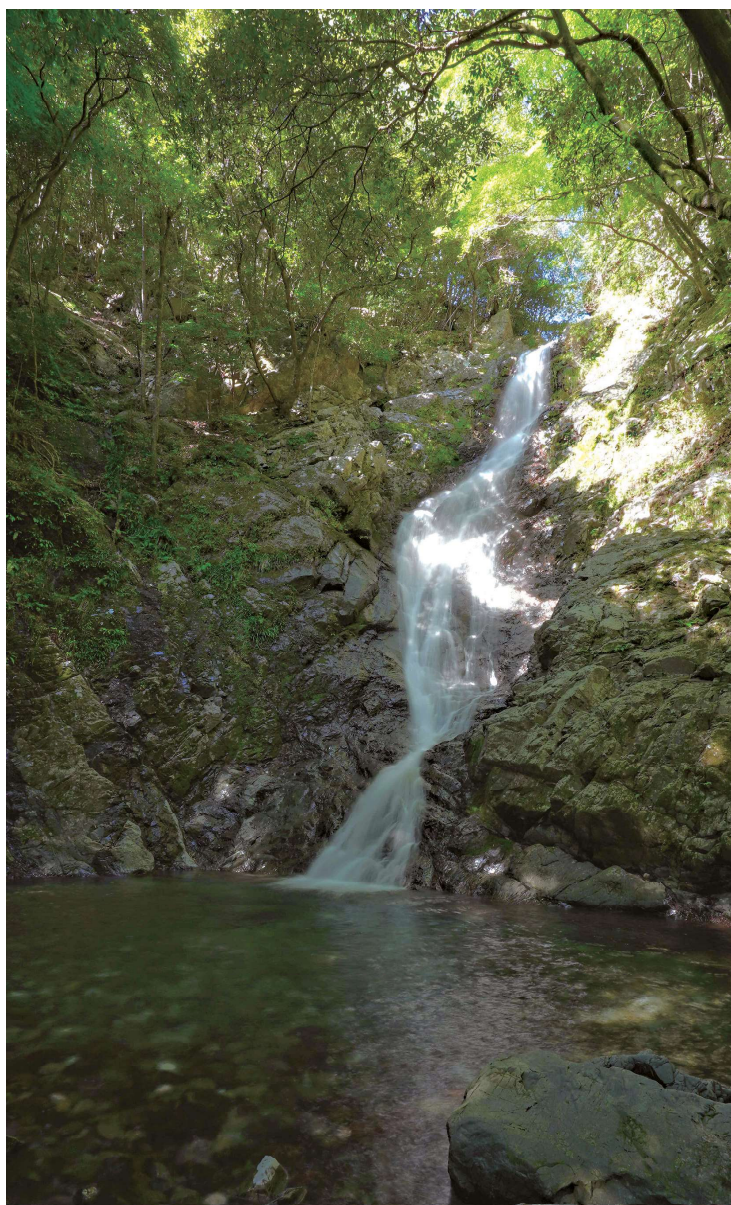
村山不動滝

むらやまふどうたき

落差：約 30 m



南伊勢町で一番落差のある滝



山の水を集めてゴツゴツの岩肌を落下する

村山地区の北側、村山川の上流にある滝の入り口には、赤い鳥居が立ち、不動明王が祀られている。

80代の古老に聞くと、毎月28日のお不動さんの日になると地域の人たちはお参りに出かけたという。滝参りに熱心な人は、お籠りもしたといわれる。土地の人は「朝日滝」とも呼んでいる。

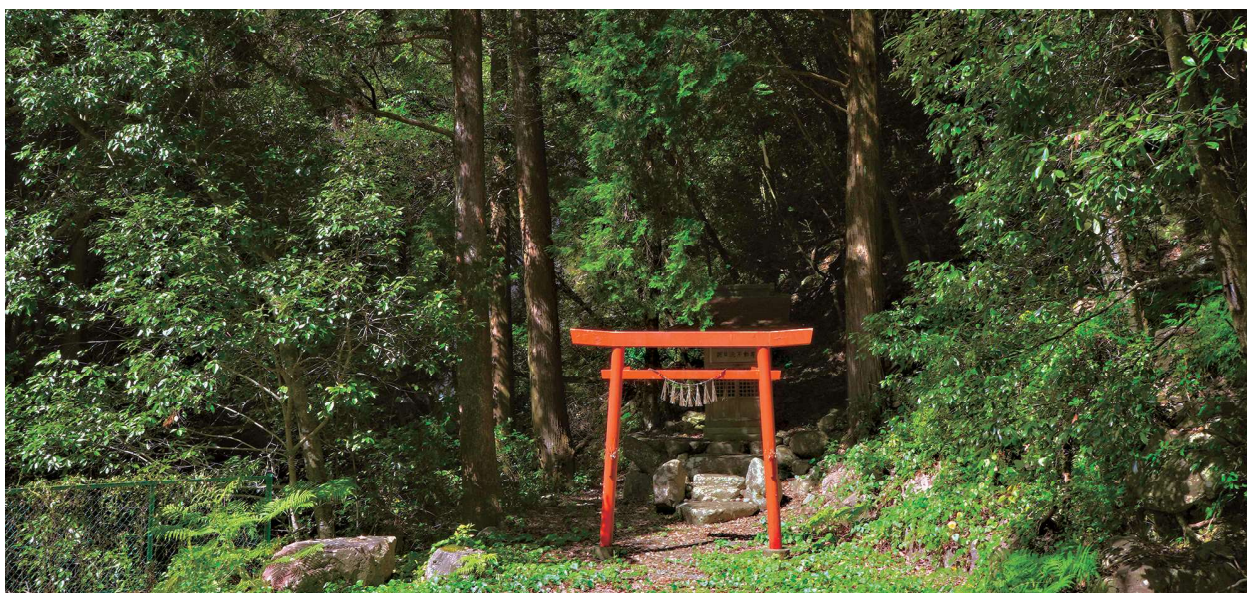
昔は雨乞いがおこなわれた場所でもあり、滝つぼでふんどしを洗って禊^{みそぎ}を行うことで雨がもらえるとされた。

大きく立派な滝は、伊勢志摩でも1、2を争う規模といわれ、水量も多い。岸壁の斜面は落差30メートルで、一気に滑り落ちる姿は、豪快そのもの。

秋になると山々が色づき、滝の周囲に紅葉が楽しめて見ごたえがある。

透明度が高く大きな滝つぼは、20年ほど前までは深さが1メートルほどあり、ここで子どもたちは泳いだり飛び込んだりして遊んだという。

01

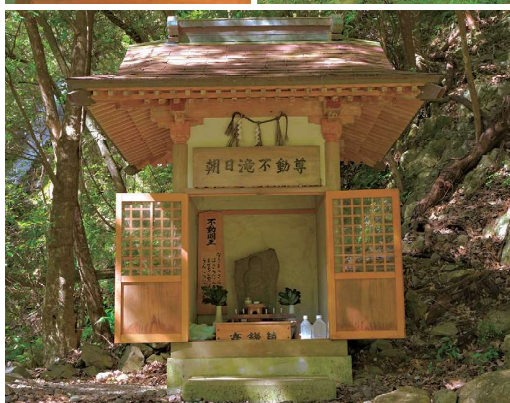


02



03

04



06

05



- 01 赤い鳥居の向こうに不動明王像が祀られている
- 02 不動明王像
- 03 毎月 28 日の不動さんの日に御籠もりした小屋
- 04 地元の長老は朝日不動とも呼ぶ
- 05 子どもが遊んだ滝つぼは落石で浅くなっている
- 06 南伊勢町一の大きさを誇る滝つぼ

File No.

7

古和浦不動滝

こわうらふどうたき

落差：約 22 m



二筋の滝の姿が「夫婦滝」とも呼ばれる



二筋が段になって流れ落ち、途中で結ばれる縁起の良い形

古和浦の西にそびえる「有地山（▲^{あろちさん} 555 m）」を源流とする有地川にある滝。

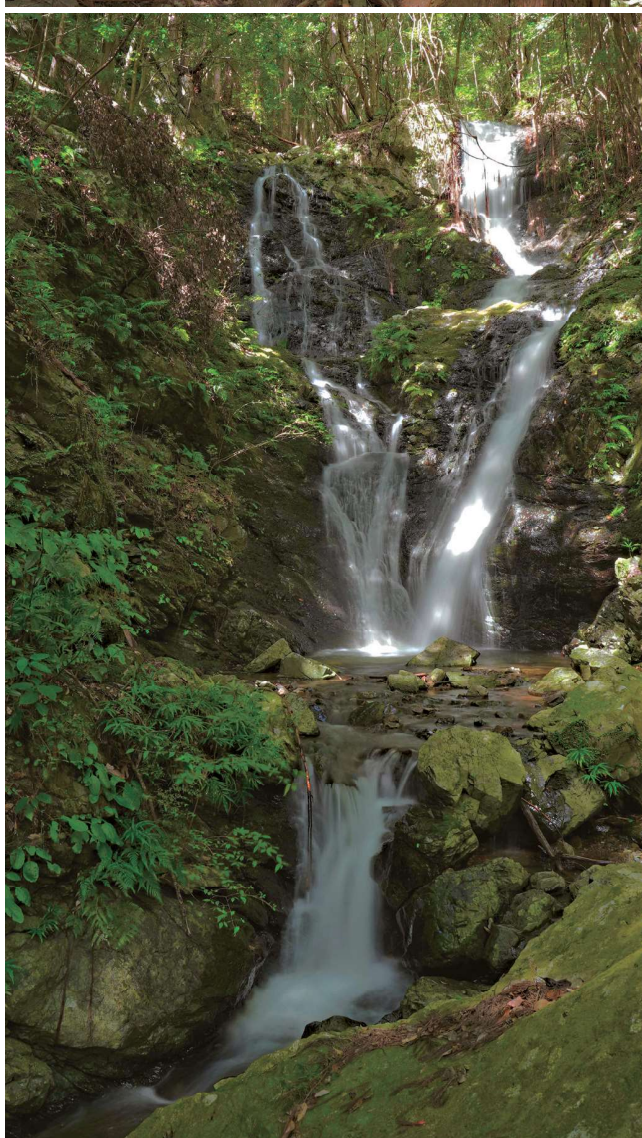
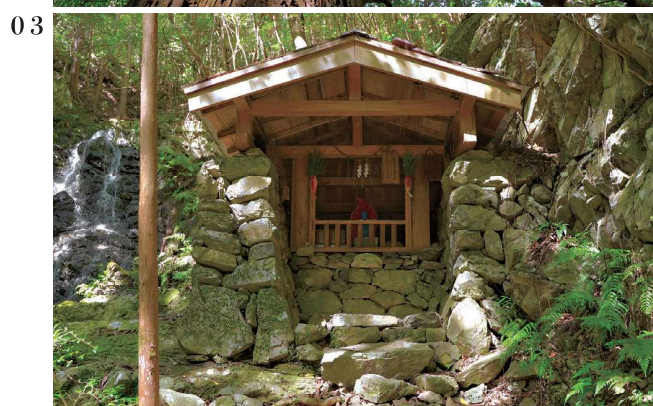
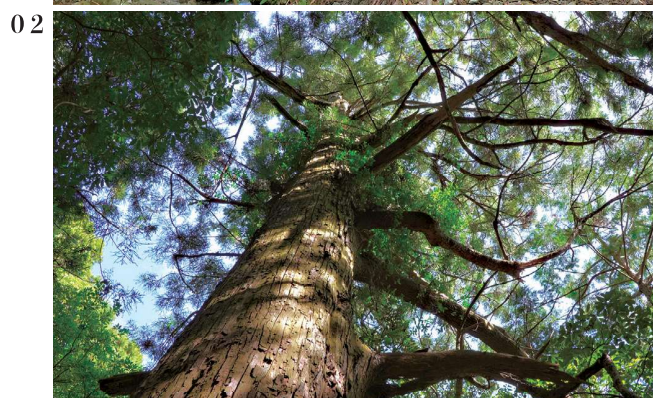
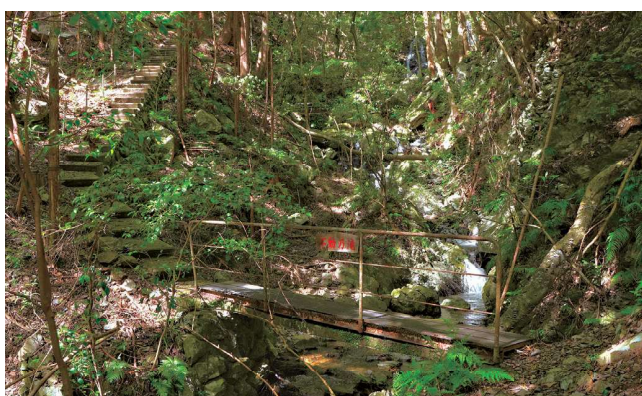
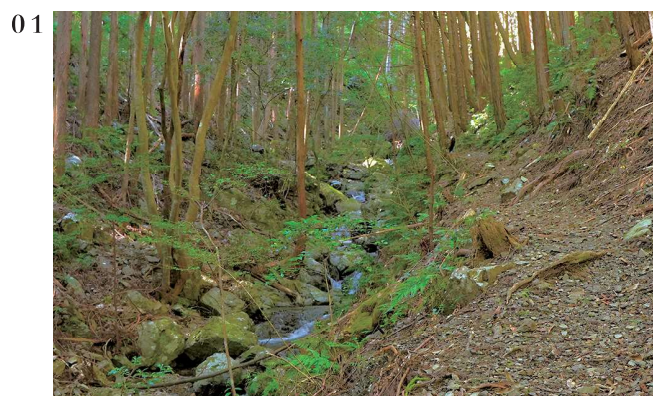
毎月 28 日になると、お不動さん^{のぼり}の日を知らせる幟が国道沿いや集落内に立てられ、土地の人たちがお参りに行くという。かつては修験者たちが修業をし、願掛けをおこなったといわれて、今もお根強い信仰心が地域に受け継がれている。

入り口に並んだ二本の大きな老杉^{しめなわ}には注連縄が掛けられていて、これを鳥居に見立てて滝を臨むこともできる。その間を通り抜けて滝へと向かう。

見上げる滝は Y 字型に流れる段瀑で、二筋の滝が下方で一本に結ばれる姿が美しく、雄滝（右）・雌滝（左）の「夫婦滝」とも呼ばれている。再び一緒になることから、人と人を結び付けてくれるような滝といわれる。落差も水量もあり、迫力は十分。

滝の中腹右側に小さな祠があり、不動明王が祀られている。

滝の上流は有地山への登山口となっている。



- 01 滝まで川沿いの山道を歩く
- 02 樹齢100年を越える大木
- 03 不動明王像が祀られた祠
- 04 赤と青に塗られた不動明王像
- 05 滝近くに橋が掛かる
- 06 杉の大木の間をって滝へ行く
- 07 山の水を集めて落下する二本の滝

File No.

8

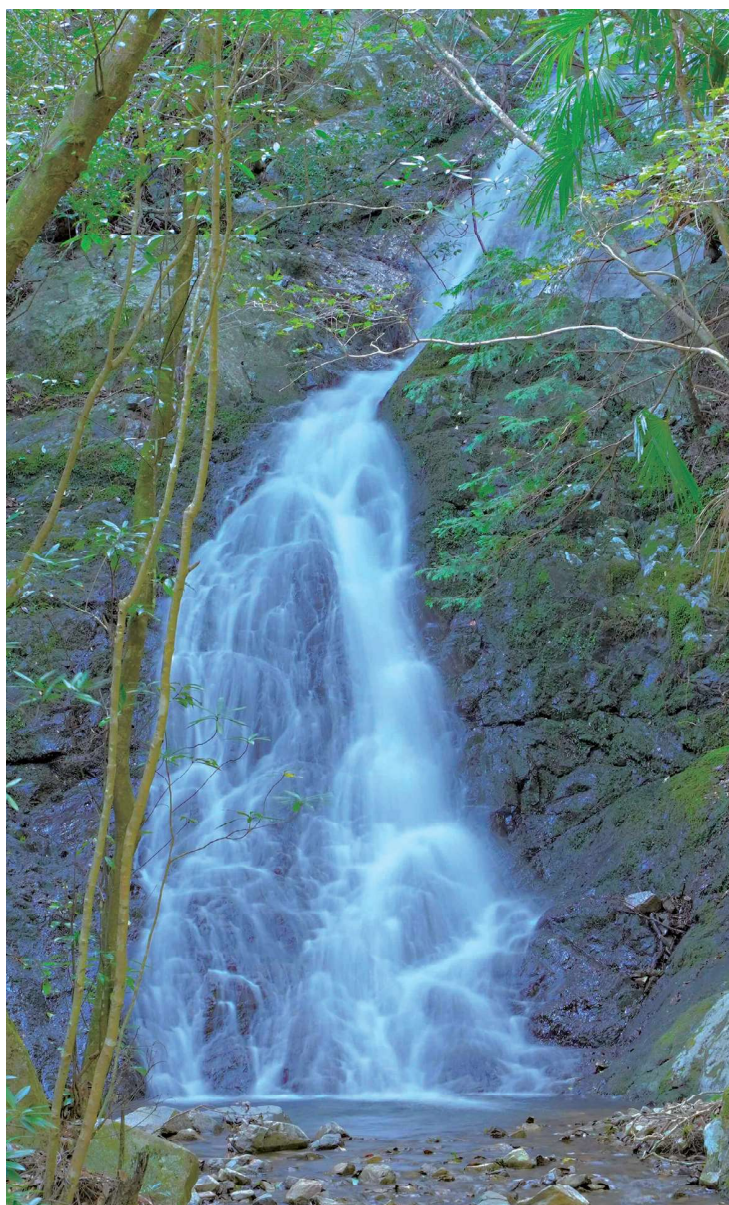
新桑竈不動滝

さらくわがまふどうたき

落差：約 15 m



猪垣の続く道を歩いてたどり着く



二段の溪流瀑は豊富な水量のまま水しぶきをあげる

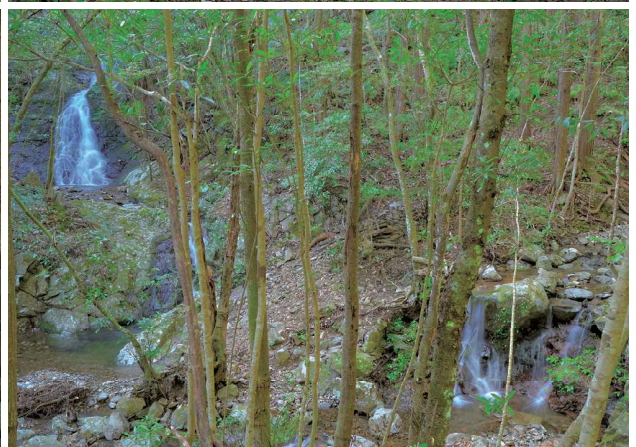
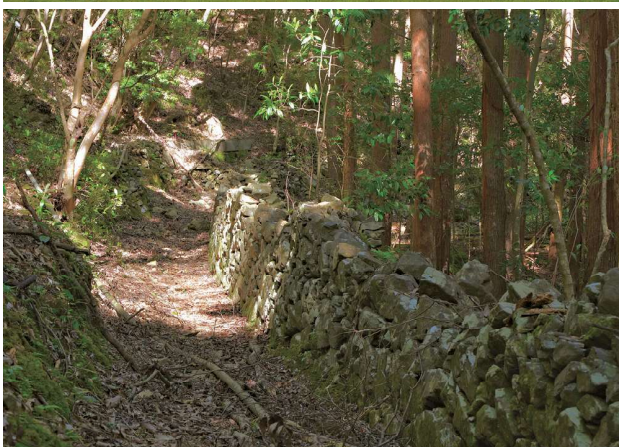
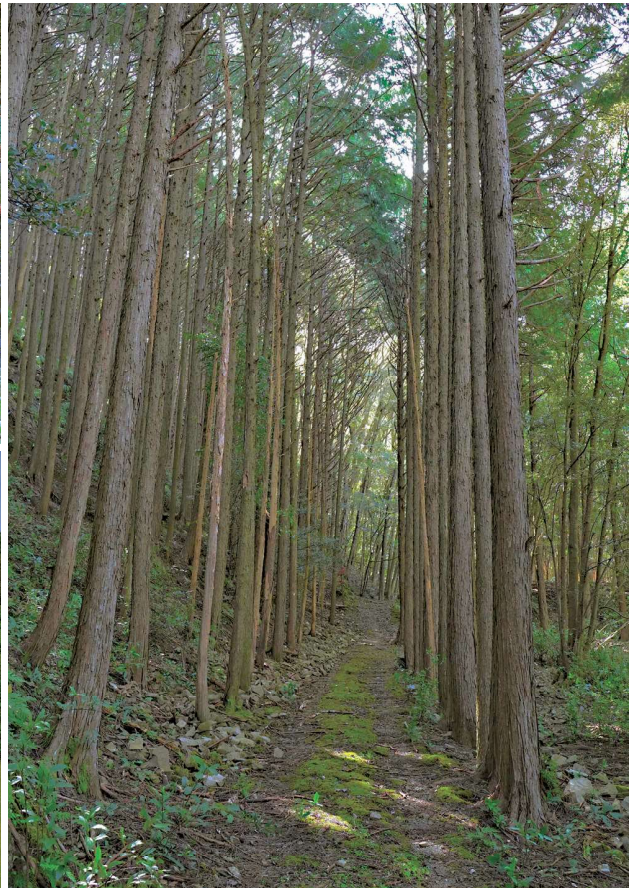
民家の並ぶ新桑竈の集落を抜け、「吉田橋」を渡って進むと、かつて米を作っていた田んぼ跡に、草むらが広がる。そこを横切り、猪から田んぼを守るために石を積み上げた猪垣に沿って土道を歩く。

猪垣を抜け、砂防ダム（堰堤^{えんてい}）を過ぎ、田畑跡の石垣に沿って登っていく。さらに新たな猪垣を左に見ながら右へ進むと沢に出会う。そのまま取水路のある沢沿いの^{そまみち}杉道を5分ほど歩き、岩場を横切ると、ようやく滝が見えてくる。

落差は15メートルほど、二段の斜瀑となって白く輝く。

かつて米づくりを営んだ痕跡や農作物を守った猪垣を眺めてたどり着いた滝では、人々の営みに思いを馳せることができる。

バス停「新桑竈口」から滝まではおよそ2キロ。滝の上流を進むと「姫越山（^{ひめごやま}▲503m）」へと道を通じる「芦浜道」となっている。土道は狭く、わかりづらい箇所もあるので、事前にルートを確認しておこう。



01 猪から田んぼを守った猪垣

02 流れ落ちる不動滝を上から眺める

03 昭和 30 年代まで米を作った田んぼ跡

04 田んぼを囲った猪垣が続く

05 人目を避けるように作られた棚田

06 ヒノキの植林の間を行く

07 不動滝と二本の小さな滝

南伊勢町滝のものがたりづくりプロジェクト

多くの人々に南伊勢町の個性豊かな滝を訪れていただき、
そして滝の魅力を伝える案内人になってもらえたら、
との思いで、この本を作りました。



切原白滝



神地谷七つ滝



押渕白滝



東宮不動滝

南伊勢町の8つの滝



河内不動滝



村山不動滝



古和浦不動滝



新桑竈不動滝

南伊勢町8つの滝のものがたり

2024年3月 第1刷発行

制作 ティーブイエスネクスト
イラスト 杉本純
発行 三重県
取材協力 南伊勢町



こちらの二次元コードから
南伊勢町の8つの滝の動画を
ご覧いただけます。

© Mie Pref. 2024 Printed in Japan

◎ 本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することを禁じます。